

1 主題名 差別や偏見のない社会の実現 4－(3) 公正・公平

2 資料名 産経新聞社説「東京目指し競技力向上を」、朝日新聞社説「メダルより大切なこと」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

現代の日本の社会においては、障害をもっている人などが普通に生活を送るために、バリアフリーやユニバーサルデザインなど、生活するうえで障害になっているものを取り除いていこうとする活動が進められてきている。一方で、障害者に対する偏見や差別は、いまだに根強く残っている現状がある。差別や偏見がなくなるといえない大きな理由としては、障害のない人々が自分の問題として考えていないことや、積極的に問題を解決していこうとしていないことがあげられる。資料として用いる2つの新聞の社説には、パラリンピックを通して障害者理解を進めるとともに、行政機関などがさらなる支援をしていくべきことが述べられている。この授業では、来年行われる「福井しあわせ元気大会」(全国障害者スポーツ大会)を通して、中学生が自ら積極的に大会にかかわっていくことで、差別や偏見のない社会へ向け活動していくきっかけになるようにしていきたいと思っている。

(2) 生徒について

まじめで穏やかな生徒が多く、どの授業に対しても意欲的に活動に取り組むことができている。男女の仲もよく、和気あいあいとした雰囲気の中で学校生活を送ることができている。

本時の授業では、話し合い活動を通して、自分の考えを相手に伝える力や、お互いの考えを尊重しつつ、よりよい考えを積み上げていけるような力を養わせていきたい。そのために、自分の考えを素直に出せるようなあたたかみ授業の雰囲気づくりを心掛けていきたい。

(3) 資料について

本資料は、リオデジャネイロパラリンピックにおいて、日本人選手が獲得した金メダルが0個だったことに対する産経新聞と朝日新聞の社説をとりあげている。両社の見出しからは、産経新聞は東京オリンピックに向けた競技力向上を主張し、朝日新聞はメダルより大切なことがあることを主張しており、一見、正反対な考え方を主張しているように思える。しかし、中身を読み進めていくと、両社に共通して書かれていることがあることに気付いていく。それは、障害者がスポーツなどの活動をする上で、まだまだ理解が得られておらず活動が限られている現状や、施設などの受け入れ態勢が整っていないことへの行政機関などへの不満などである。そして、何より日本の社会全体の問題として「心のバリアフリー」を進めていくこと、人々の違いを認めあい、受け入れ、ともに生きる社会を実現することが大事だと述べられている点である。パラリンピックを1つのきっかけとして、日本社会の課題となっている障害者が社会の中でどのように生活し、私たちはどう関わっていくべきなのかを考えさせていきたいと思う。

(4) 指導について

本時は産経新聞と朝日新聞の社説を比較し、両社が何を読者に主張しているのかを読み取らせていく。どちらの社説により共感できたか理由を考えさせていく過程で、障害者スポーツに対する現状や、障害者が受けている差別や偏見について考え、またこれから社会や自分自身が障害者としてどう向き合っていけばよいのかといった課題を見いだしていく。さらに、そういった課題に対し、具体的に自分たちは何ができるのかを、来年行われる「福井しあわせ元気大会」をとりあげることで、自分に直接関係することとして考えさせていきたい。

4 本時のねらい

日本の社会の中にある障害者差別という課題を理解するとともに、課題解決に向け主体的に行動していく態度を養う。

5 準備物

資料(産経新聞、朝日新聞社説)、ワークシート、I P a d

6 本時の展開

<p>学習活動</p> <p>○活動（ゴシック体：表現する活動）</p> <p>・予想される生徒の反応</p>	<p>指導上の留意点</p> <p>・指導・支援</p>
<p>○来年開催される「福井しあわせ元気国体」と「福井しあわせ元気大会」の違いについて考える。</p> <p>○リオデジャネイロパラリンピックの動画を見る。</p>	<p>・画像や資料、動画などから障がい者スポーツへの理解を深めさせる。</p>
<p>○産経新聞と朝日新聞のリオパラリンピックの社説を読む。</p> <p>○両紙を比較し、どちらの社説の考え方を支持するか理由も含めてワークシートに記入する。</p> <p>・産経新聞：もっと国や競技団体が障がい者スポーツへ支援を行い、競技力を向上すべき。そのことが障がい者の社会参加や障がい者への偏見をなくすことにつながっていく。</p> <p>・朝日新聞：勝利至上主義とは一線を画すべき。人々の違いを認め合い、受け入れ、ともに生きる社会を実現することが大事である。</p> <p>○ネームプレートをもとに自分の考えを発表させる。</p> <p>○新聞記事から読み取れる、現在の日本社会が抱えている課題をワークシートに記入する。</p>	<p>・リオパラリンピックの結果を受け、2つの新聞社が異なる視点から、今後取り組むべきことを述べていることを読み取らせる。</p> <p>・黒板にどちらを支持するかネームプレートを貼らせる。</p> <p>・生徒の発表を使って、障がい者を含むすべての人の多様な生き方が受け入れられる社会を実現させていくことが大切なことを理解させていく。</p> <p>・障がい者への差別や偏見が未だに残っている社会を変えていかなければならないことを理解させる。</p>
<p>「福井しあわせ元気大会」で、私たちは何ができるのか、何をすべきだろうか。</p>	
<p>○来年開催される「福井しあわせ元気大会」で、自分たちが具体的に何ができるかグループで話し合う。</p>	<p>・自分が行動することで、障がい者（スポーツ）への理解が深まり、差別や偏見をなくすことにつながることに気付かせる。</p>
<p>○今日の授業で気付いたことをワークシートに書く。</p>	

7 授業の観点

新聞の社説を比較しながら読む活動は、障がい者が置かれている現状に目を向けさせ、自分から障がい者行動にうつしていこうとする考えをもたせることに有効であったか。

8 反省

9 ご高評